

# 土砂災害対策

## 土砂災害とは？

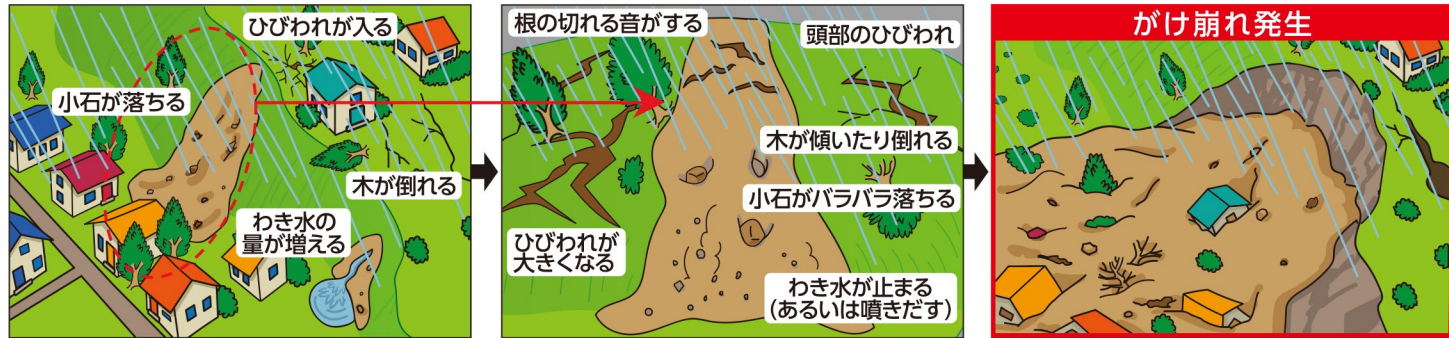
土砂災害は、台風、大雨、地震などにより発生しやすくなります。斜面の地表に近い部分が、雨水の浸透や地震等でゆるみ、突然、崩れ落ちる「がけ崩れ」、斜面の一部あるいは全部が地下水の影響と重力によってゆっくりと斜面下方に移動する「地すべり」、山腹や川底の石、土砂が長雨や集中豪雨等によって一気に下流へと押し流される「土石流」があります。また、土砂災害が発生する前には、様々な前兆現象が起こる時があります。

## 土砂災害の前兆・種類

※下記は一般的な前兆現象です。すべての場合において必ず起きるというものではありません。ふだんと違い、少しでも身に危険を感じたら避難するようにしましょう。

### がけ崩れ

地中にしみ込んだ水分が土の抵抗力を弱め、雨や地震などの影響によって急激に斜面が崩れ落ちることをいいます。がけ崩れは突然起きるため、人家の近くで起きると逃げ遅れる人も多く、被害が発生する割合も高くなっています。



### 土石流

山腹・川底の石や土砂が長雨や集中豪雨などによって一気に下流へと押し流されることをいいます。その流れの速さは規模によって異なりますが、時速20~40kmという速度で一瞬のうちに人家や畑などを壊滅させてしまいます。



### 地すべり

斜面の一部あるいは全部が、地下水の影響と重力によってゆっくりと斜面下方に移動する現象のことをいいます。一般的に移動土壌量が大きいので、甚大な被害を及ぼします。また一旦動き出すと、これを完全に停止させることは非常に困難です。



## 土砂災害の予防策

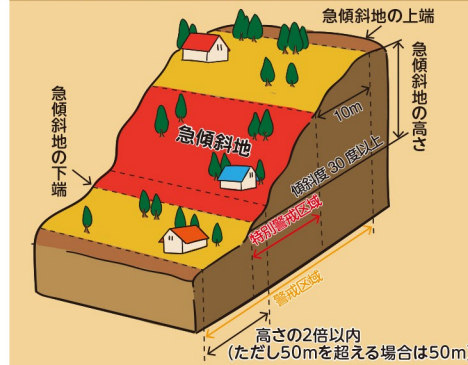
日ごろから避難する場所や道路などを確認しておきましょう。家の近くががけのある方は、がけの周辺を見回り、次のようなことを心がけましょう。



## 土砂災害特別警戒区域・土砂災害警戒区域について

土砂災害防止法に基づき群馬県が計画的に基礎調査を実施して、「土砂災害特別警戒区域」と「土砂災害警戒区域」の指定及び見直しを行っています。

### 急傾斜地の崩壊(がけ崩れ)



#### 土砂災害警戒区域(イエローゾーン)

- 傾斜度が30度以上で高さが5m以上の区域
- 急傾斜地の上端から水平距離が10m以内の区域
- 急傾斜地の下端から急傾斜地の高さの2倍(50mを超える場合は50m)以内の区域

### 土石流



#### 土砂災害警戒区域(イエローゾーン)

- 土石流の発生のおそれがある溪流において、扇頂部から下流で勾配が2度以上の区域

### 地すべり



#### 土砂災害警戒区域(イエローゾーン)

- 地すべり区域
- 地すべり区域下端から、地すべりの地塊の長さに相当する距離(250mを超える場合は250m)の範囲内の区域

### 土砂災害特別警戒区域(レッドゾーン)

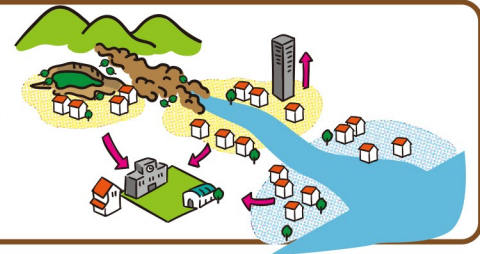
土砂災害が発生した場合に、建築物の損壊が生じ住民等の生命または身体に著しい危害が生ずるおそれがあると認められる区域(土石等の移動等により建築物に作用する力の大きさが、通常の建築物が土石等の移動に対して住民の生命または身体に著しい危害が生ずるおそれのある損壊を生ずることなく耐えることのできる力の大きさを上回る区域)

## 土砂災害から身を守るために

土砂災害は一瞬のうちに多くの人命や財産を奪う恐ろしい災害です。しかも、その発生を事前に予測することは非常に難しいです。土砂災害から身を守るためには、日ごろからの備えが大切です。

### ●住んでいる場所が「土砂災害警戒区域」かどうか確認!

自分の家が土砂災害のおそれのある地区にあるかどうか、確認しましょう。また、避難の際にどこにどのように逃げるのか知っておくことが大切です。避難場所や避難経路を確認しましょう。  
※ただし、土砂災害警戒区域等でなくても、土砂災害が発生する場合があります。付近に「がけ地」や「小さな沢」があれば注意しましょう。



### ●雨が降り出したら土砂災害警戒情報に注意!

雨が降り出したら、「土砂災害警戒情報」に注意しましょう。土砂災害警戒情報は、大雨による土砂災害発生の危険度が高まったときに、町が避難指示などを発令する際の判断や住民の自主避難の参考となるよう、都道府県と気象庁が共同で発表する防災情報です。これは、市町村が警戒レベル4避難指示を発令する目安となる情報で、災害の切迫度が高まっていることを示しています。



### ●警戒レベル4で全員避難!

土砂災害警戒情報(警戒レベル4相当情報)が発表されたら、避難指示が発令されていなくても、土砂災害警戒判定メッシュ情報などを参考にし、家族・親戚や地域内の方々に声をかけあい、早めに近くの避難場所など、安全な場所に避難しましょう。特に、お年寄りや障がいのある人など避難に時間がかかる人は、移動時間を考えて早めに避難させることが大切です。夜中に大雨が予想される場合には、暗くなる前に避難することがより安全です。また、土砂災害の多くは木造の1階で被災しています。どうしても避難場所への避難が困難なときは、次善の策として、近くの頑丈な建物の2階以上に緊急避難するか、それも難しい場合は家の中でより安全な場所(がけから離れた部屋や2階など)に避難しましょう。

